

ご挨拶

運営会議議長

さとう よしひこ
佐藤 慶彦

(株)NTTデータ



このたび、運営会議議長を拝命いたしましたNTTデータの佐藤慶彦です。会員の皆様には平素よりJAHISの事業運営にご協力、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

我が国の医療現場は、少子高齢化の急速な進行に伴う医療需要の増大、医療従事者の不足や地域偏在、さらには業務負荷の増大など、複合的かつ構造的な課題に直面しています。これらの課題に対応し、限られた資源の中で安全で質の高い医療を持続的に提供していくことは、国民生活を支える上で極めて重要なテーマとなっています。

こうした背景を踏まえ、国は『医療DX令和ビジョン2030』を掲げ、全国医療情報プラットフォームの整備、電子カルテ情報の標準化・共有、電子処方箋の普及、診療報酬改定DXなどを、制度とデジタル技術の両面から一体的に推進しています。

医療DXはいま、構想や制度設計の段階から、医療現場での本格的な実装・運用へと移行しつつあり、政策動向や標準への対応を含めた実行力が、これまで以上に問われる局面に入っています。

JAHISは、設立以来約30年にわたり、医療情報システムの標準化と相互運用性の確保を中核として、産業界の立場から政策提言や関係機関との連携を通じ、我が国の医療DXを下支えしてきました。標準やガイドラインの整備は、医療IT企業にとっての技術的基盤であると同時に、医療現場や行政と共通の前提のもとで連携を進めるための重要な社会的基盤でもあります。

医療DXが社会実装の段階へと進む中においては、標準やルールを『決まった後に理解し対応する』だけでなく、『検討・形成の段階から関与する』ことの重要性が増しています。JAHISは、行政、医療現場、産業界をつなぐハブとして、制度動向や標準化の議論を共有し、関係者が立場を超えて建設的な議論を行う場を提供してきました。こうした場への参画は、各企業が自社の技術やサービスを将来の医療DXの方向性と整合させ、持続的な事業展開につなげていく上でも大きな意義を持つものと考えています。

運営会議は、JAHISの多様な委員会・部会活動を横断的に支え、組織全体としての方向性や優先順位を整理し、実効性ある事業運営を推進する役割を担っています。運営会議議長として、医療現場の実情と国の医療DX施策の動向を的確に捉えながら、会員各社の知見を結集し、標準化を軸とした取り組みが社会に着実に実装されていくよう尽力してまいります。

引き続き、JAHISの活動へのご理解とご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

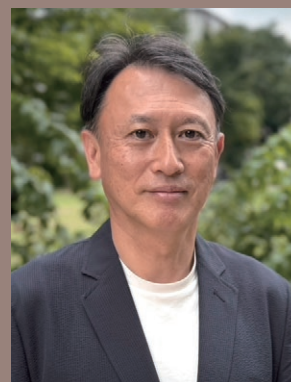
ご挨拶

総務会長

えのもと やすゆき

榎本 康之

(日本アイ・ビー・エム(株))



会員の皆様におかれましては、平素よりJAHIS活動に格別のご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

このたび、保健医療福祉情報システム工業会 総務会の会長を拝命するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

令和8年となり、医療・ヘルスケア分野におけるデジタル化の進展は新たな局面を迎えています。医療DXや標準化、データ利活用を推進する国の取り組みも加速しており、私たちJAHISに求められる役割と期待は一段と高まっています。

社会の変化が急速に進む中で、会員の皆様が活動しやすく、また業界に貢献できる基盤を維持・強化していくことは、総務会として重要な責務であると認識しています。

これまでの数年間は感染症の影響により、活動スタイルが大きく制約されてきました。しかし現在は、対面とオンラインを組み合わせたコミュニケーション環境が定着しつつあります。リアルな交流の価値を改めて認識しながら、時代に即した効率的な運営体制を整備していくことが求められています。総務会としても、会員の皆様が参加しやすく、実りある場を提供できるよう努めてまいります。

また、本会では女性会員の活躍促進や多様性向上の取り組み、さらには新規会員獲得や情報アクセス性向上を目的としたHP改善など、前任者の下で始まった活動が着実に進展しています。これらの取り組みをさらに発展させ、会員の皆様一人ひとりにとって価値ある組織であり続けられるよう努めてまいります。

本年度の総務会では、以下の三点を柱として事業を進めてまいります。

(1) 会員に関する事項

永続的な運営基盤を確立するため、新規会員の増加と退会抑制に向けた施策を進めるとともに、現行サービスの課題を整理し、必要な改善を行います。

(2) 組織運営に関する事項

JAHISのステータス向上と適切な情報発信を推進するとともに、内部プロセス改革およびITシステム整備を進め、効率的かつ透明性の高い組織運営を目指します。

(3) 法人としての事項

一般社団法人としての規則・規程類を随時見直し、透明性・公平性の確保に努め、社会からの信頼向上につなげてまいります。

特に今年度注力する施策について以下に紹介いたします。

まず、「会員に関する事項」においては、昨年度までに実施した3つのタスクフォース

- a. 女性活躍
- b. 会員意識調査
- c. HP改善検討

の活動成果を踏まえ、ブランドイメージ向上と会員勧誘活動の強化を図ります。特にHPは約10年ぶりにリニューアルし、新規会員獲得につながるよう情報発信を強化してまいります。

次に、「組織運営に関する事項」では、情報システム検討委員会（委員長：事務局長、委員：各部門運営幹事ほか）と連携し、JAHIS情報システムの見直しに向けた計画を策定し、今年度の実施項目を確実に遂行します。また、会員の皆様の利便性向上につながる電子化も促進してまいります。

これらの活動を通じ、総務会として今後も会員の皆様に広くJAHISの価値を提供できるよう取り組んでまいります。

急速に変化する令和8年の環境においても、JAHISが医療・福祉情報システムの発展に寄与し続けられるよう、誠心誠意努めてまいります。

会員の皆様におかれましては、引き続きのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶

医療システム部会 部会長

おかだ やすし
岡田 靖士

(日本電気㈱)



このたび、2026年6月より医療システム部会の部会長を拝命いたしました岡田靖士と申します。私はこの4年間、電子カルテ委員会の委員長を務め、医療情報の標準化の最前線に携わってまいりました。その経験を礎に、部会長としての重責に身の引き締まる思いです。

近年、医療および健康分野におけるデジタル化は加速の一途をたどっています。2025年12月には医療法等の改正が成立し、全国医療情報プラットフォームの創設・電子カルテ情報の標準化・診療報酬改定DXを三本の柱とする医療DXの推進が法的に裏付けられるとともに、電子カルテの全医療機関への普及（2030年末）が法定目標として定められました。2026年7月閣議決定の「骨太の方針2026」では、新たに「医療情報化推進方針」を策定し、電子カルテ・電子処方箋の普及と情報連携を進める方針が示されました。

その一方で、医療機関を狙うサイバー攻撃は深刻さを増し、医療情報システムの安全確保は待ったなしの課題です。安全管理ガイドラインの改定や対策の義務化が進むなか、医療の安全と信頼を支える基盤づくりにおいて、私どもに期待される役割も、ますます重みを増しています。加えて、生成AIをはじめとする新たな技術を医療現場へどう実装し、その安全な運用をいかに支えていくかも、私どもが向き合うべき重要なテーマです。

骨太の方針には「医療等データの一次利用及び二次利用の一体的制度設計」が明記され、内閣府を中心に法的枠組みの整備が本格化するなど、国を挙げてデータの利活用が推し進められています。JAHISが掲げる「2030ビジョン」——健康・医療・介護のデータが安全に循環し、その恩恵が国民一人ひとりに還元される「データ循環型社会」の実現——は、まさにこの潮流の中核に位置するものであり、この歩みのなかで当部会が果たせることも、決して小さくはないと考えています。

医療システム部会は、電子カルテ委員会、部門システム委員会、セキュリティ委員会、相互運用性委員会の4つの委員会を中心に活動しております。なかでも電子カルテ委員会での活動を通じて、私が強く実感してきたことがあります。医療情報システムをつなぐ仕組みは、国・医療機関・アカデミア、そして私どもベンダーの、いずれか一者だけで成し遂げられるものではありません。制度を動かす国、現場の切実な知見を持つ医療機関、確かな理論に立つアカデミア、そして技術を形にする私どもベンダー——その一つが欠けても、医療の現場に届く仕組みは立ち上がりません。それぞれの立場から現場の知識と意見を持ち寄り、議論を重ね、協働して積み上げていくこと、そして技術仕様を定めるだけでなく、それが現場に根づくまでを見据えること。

その積み重ねの先にこそ、実効性のある仕組みが生まれ、医療DXが前進すると確信しております。

部会長として、私はこの協働の輪を一層広げることには力を尽くす所存です。電子カルテ情報の標準化と普及・相互運用性の確保をはじめ、各委員会の取り組みをさらに前へ進めるべく、行政・関連団体・他部会、そして会員の皆様との連携を深めながら、丁寧かつ着実に運営してまいります。

医療システム部会の活動に、引き続きのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

ご挨拶

保健福祉システム部会 部会長

おぎの やすはる
荻野 康晴

(富士通Japan㈱)



JAHIS会員の皆様におかれましては、平素より保健福祉システム部会の活動にご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、保健福祉システム部会長を拝命いたしました荻野康晴と申します。着任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

我が国においては、少子高齢化の進展と生産年齢人口の減少が加速し、社会保障制度の持続性確保と国民のQOL向上の両立がかつてなく重要な課題となっております。

こうした中、医療DXの推進やデータヘルス改革、PHRの活用など、データに基づく政策・サービスへの転換が急速に進展しており、健康・医療・介護・福祉分野におけるデータ利活用の重要性は一層高まっています。

さらに近年では、生成AIをはじめとする高度なデジタル技術の進展により、新たな価値創出の可能性が広がる一方で、セキュリティやプライバシーへの対応、適切な利活用の枠組み整備がこれまで以上に求められています。

保健福祉システム部会は、地域医療連携、在宅医療、健康・健診、介護・福祉・保険制度など、多岐にわたる分野を対象として活動しており、社会基盤を支える重要な役割を担っています。

特に、

- ・ 地域における情報連携基盤の整備
- ・ 医療・介護・福祉のデータ連携と標準化
- ・ 健康寿命延伸に向けた国民主体の健康管理の実現
- ・ 制度改正や政策動向への対応・提言

などを通じて、業界としての知見を結集し、実装可能な仕組みづくりを推進していくことが求められています。

このような状況の中、当部会としては、関係省庁・団体・他部会との連携を一層強化しながら、標準化・ルール形成・政策提言を通じて、次世代の保健医療福祉システムの実現に貢献してまいります。

また、データ利活用の高度化と安全性確保の両立、さらには新たなビジネス創出への貢献といった観点から、産業界としての価値発揮にも積極的に取り組んでいく所存です。

私自身、これまでの経験を活かしつつ、会員の皆様の知見とご協力をいただきながら、過去から積み上げられてきた強固な土台をベースに保健福祉システム部会の活動をさらに発展させていきたいと考えております。

保健福祉システム部会の活動を通じ、医療・保健・福祉分野の発展に資するとともに、JAHIS会員の皆様への価値提供に尽力してまいります。

会員の皆様におかれましては、引き続きご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。